

# 天明まちづくりセンターだより

発行/熊本市南区天明まちづくりセンター 〒861-4125 熊本市南区奥古閑町 2035 ☎096-223-1117 FAX096-223-3275

## 中緑小学校 環境学習会

10月8日、中無田閘門にて中緑小学校全児童による環境学習会がありました。最初に加勢川の河道掘削現場をいかだ船から見学し、その後、4つのグループに分かれ、環境学習やカヌー、魚釣り、川尻船着場までの船上遊覧を体験しました。当日は天候に恵まれ、児童の皆さんは、積極的に質問したり、慣れた手つきでカヌーや魚釣り、いかだ船を楽しんでいました。環境学習会は、自然の面白さや大切さを知る事ができる良い機会となりました。



## ふるさとの鳥シリーズ(6) コチドリ



チドリやシギは、春になると有明海の干潟や河口でよく見かける。しばらくした後、北へと渡っていく。秋になると、また干潟にやってきて南へと移動していく。旅の途中で立ち寄ったのだ(旅鳥)。そんなチドリを見て、柿本人

麻呂は「近江の海 夕波千鳥 汝が鳴けば 心もしのに 古思ほゆ(万葉集)」とうたっている。近江の海で夕波立つ海辺に千鳥が鳴くと、過ぎし日々が思い出されて辛いという意味のようだ。

令和2年5月のことである。新国道501号の横道を歩いていると、小鳥が鳴き騒ぎ、頭の上を飛びまわる。カメラでとらえ、図鑑で調べるとコチドリであることが分かった。目の周りに黄金のリングが特徴的で、とってもかわいい鳥である。

ふと思い出した。1年生の国語で「子どもをまもる どうぶつたち」という学習があったことを。「コチドリは、なつに日本にやってきて、かいがんやかわら、はたけなど、ひらけたばしょで子そだてをします。コチドリはてきを見つくと、なきごえを上げ、ひきずりながらよろよろとあるいて、すからとおくはなれます。コチドリのおやは、じぶんがけがをしていると、てきに見せかけて、てきのちゅういをひなからそらすのです」

コチドリは、この新国道501号で子育てをしている。「巣はどこに」「子どもはどこに」と探し回ったが、その年はとうとう見つけることはできなかった。

令和3年3月のことである。新国道501号横を歩いていると、コチドリがいる。「今年は、ひなに出あえるぞ」と毎日のウォーキングが楽しみだった。ところが、この新国道501号地に、国道を整備するための資材が運びこまれてきた。ダンプや重機が置かれるようになった。いつしかコチドリの姿も、見かけなくなった。「あー、もうコチドリの子育ては見ることができない」とあきらめた。

6月に入った頃、姪から突然「家の前の空き地に、かわいい鳥がいる。何だろかね。」と尋ねられた。早速行くと、コチドリだった。空き地に入っていくと、ビュービューと鳴き声をあげ、体をひきずるようによろよろと歩く。子育てに間違いはないが、巣も子どもも見つけることができない。

二日後、車でそっと空き地に近づくと、ひな鳥が空き地を元気に走り回っている。しめたと思い、カメラを片手に近づくと、親鳥が「ピオ ピオ ビュー」と騒ぎ出した。それと同時にひなの姿は消えてしまった。絶対、ひなはここにいると、ごろ石の中をしばらく探し回るが、どうしてもひなの姿を見つけない。仕方なく、車に入り様子をうかがっていると、親鳥がやって来た。「敵(人)がいなくなったよ。今のうちに逃げて」という鳴き声で、隠れていた場所から三匹のひなが出てきた。そして、一目散に草むらの中に逃げ込んでしまった。その後、「もう一度ひなにあいたい」と一週間程通った。親鳥はいつもの通り、ひなから私を引き離すための行動をとる。近くにひながいるのは間違いはないが、とうとうあうことは出来なかった。

コチドリは、トラック、重機、廃材等で新国道501号地での子育てを邪魔されたが、どっかい近くの空き地で、しぶとく子育てをしていたのであった。そのたくましさ感動した。来年もぜひ帰ってきて、子育てしてほしいものである。

[紹介者:白河部健さん]

## 第29回 天明文化協会 文化祭

10月3日、天明ホールにて天明文化協会主催による、令和3年度天明文化祭が行われました。当日は午前9時30分に開会し、吟詠や三味線、日舞等64の演目が発表されました。出演者の皆さんは普段の練習の成果を存分に発揮し、会場は大いに賑わいました。出演者、来場者の方々は「去年中止だったこともあり開催されてよかった」と話されていました。



熊本市天明文化協会文化祭